

# アンケート調査報告書

## 【小学校】

---

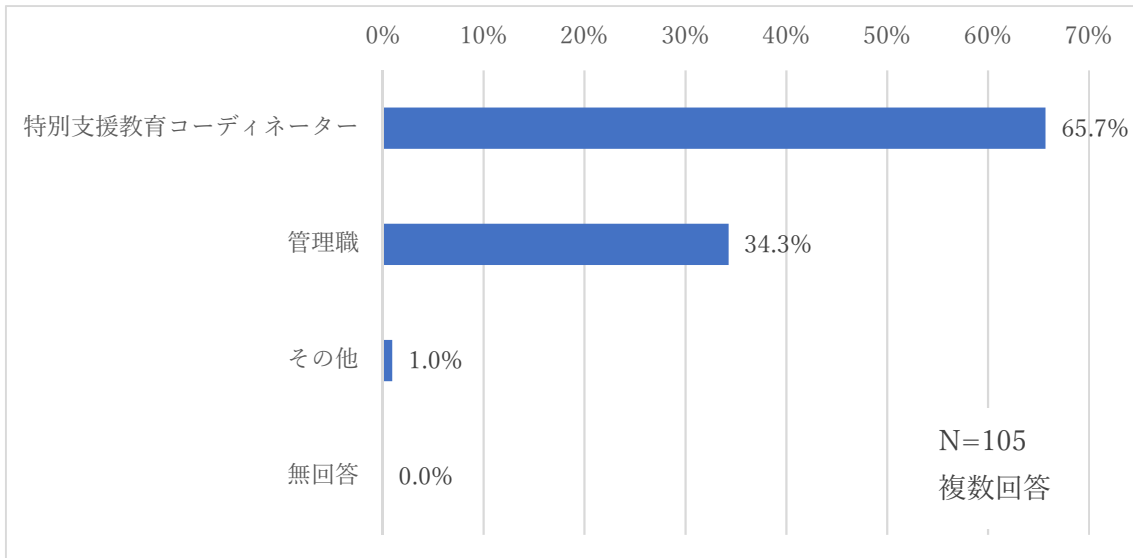
【A 貴校及び調査票ご記入者についてお聞きします】

問1 貴校の学校種別について、お答えください。

小学校、105校から回答があった。

問2-1 本調査票を記入されている方ご自身の職種について、お答えください。

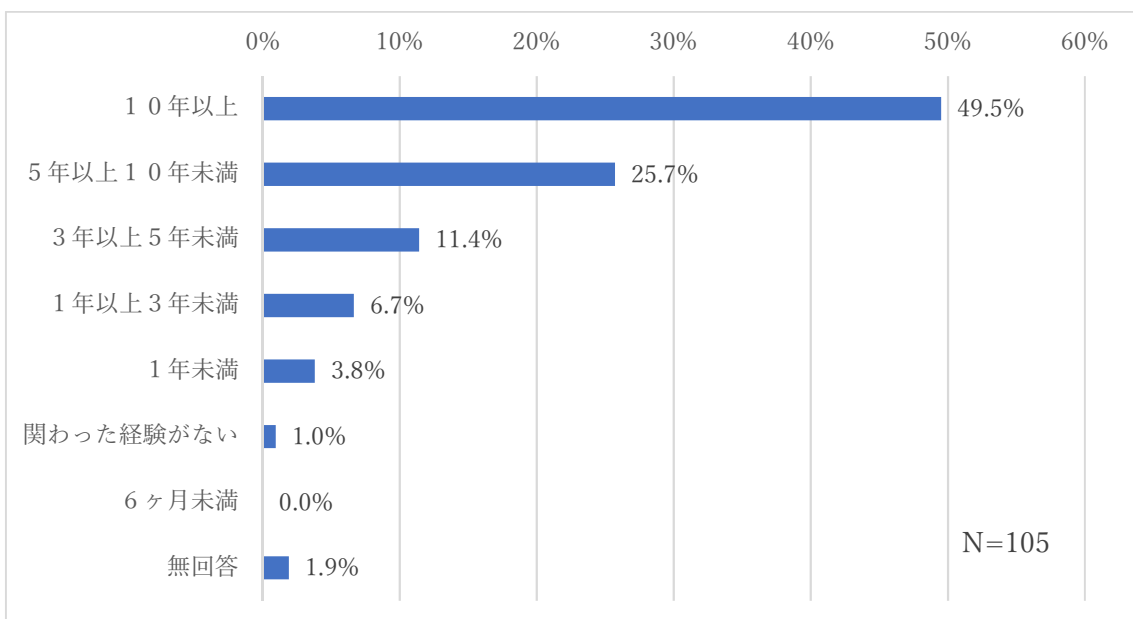
職種は、「特別支援教育コーディネーター」(65.7%)、「管理職」(34.3%)となっている。



(その他) 知的特別支援学級担任

問2-2 本調査票を記入されている方ご自身の発達障害児者の支援に関わった経験年数について、お答えください。

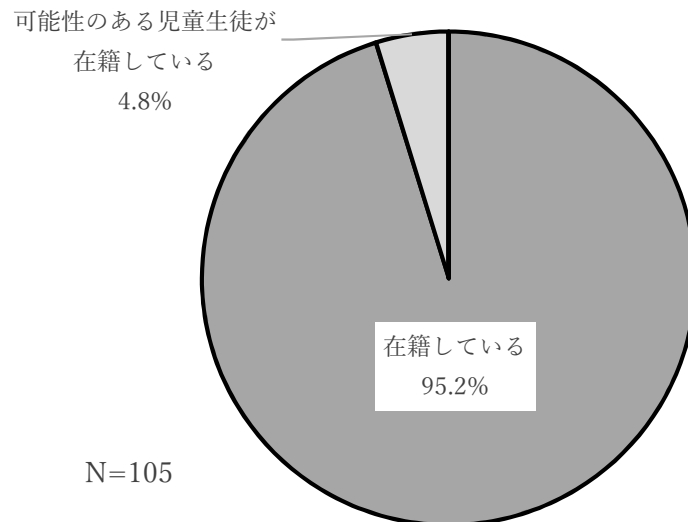
発達障害児者の支援に関わった経験年数は、「10年以上」(49.5%)が最も多く、次いで「5年以上10年未満」(25.7%)、「3年以上5年未満」(11.4%)となっている。



【B 発達障害児者への支援について伺います】

問3 貴校には、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が在籍していますか。

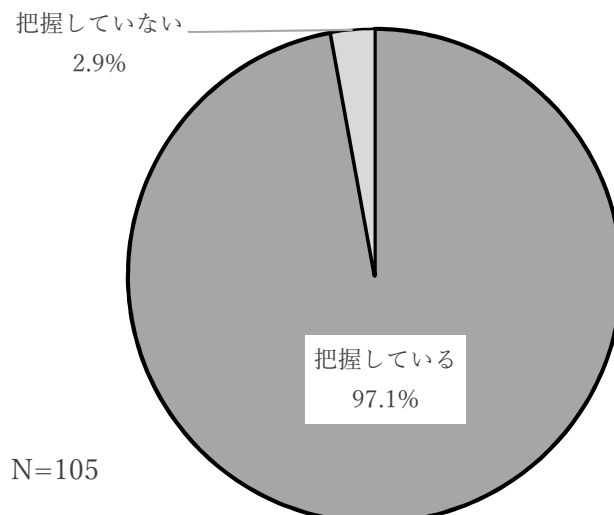
発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が在籍しているかについては、「在籍している」(95.2%)、「可能性のある児童生徒が在籍している」(4.8%)となっている。



【C 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います (その① 特性の理解)】

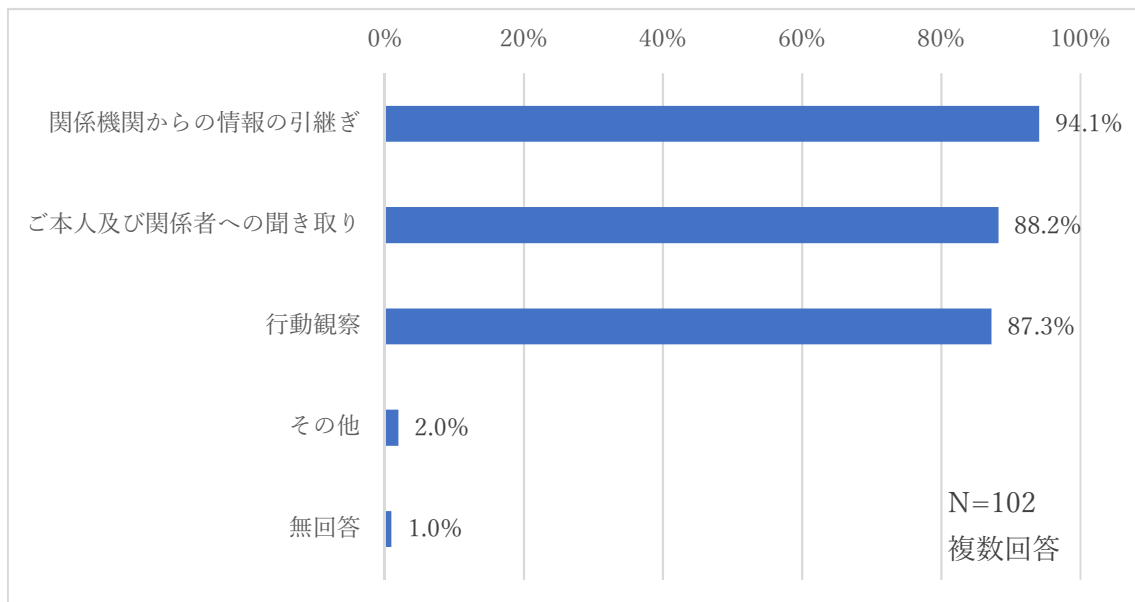
問4 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒について「感じ方(感覚)」や「周りのことへの理解の仕方」「自分の気持ちの表し方」など(以下「障害特性」と記載)にどのような特性があるか、専門職の人(医師、発達障害に関する専門機関の職員等)などが調べた結果を把握していますか。

専門職の人が調べた結果を把握しているかについては、「把握している」(97.1%)、「把握していない」(2.9%)となっている。



副問4-1 問4で「把握している」と答えた方におたずねします。どのように障害特性を把握していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

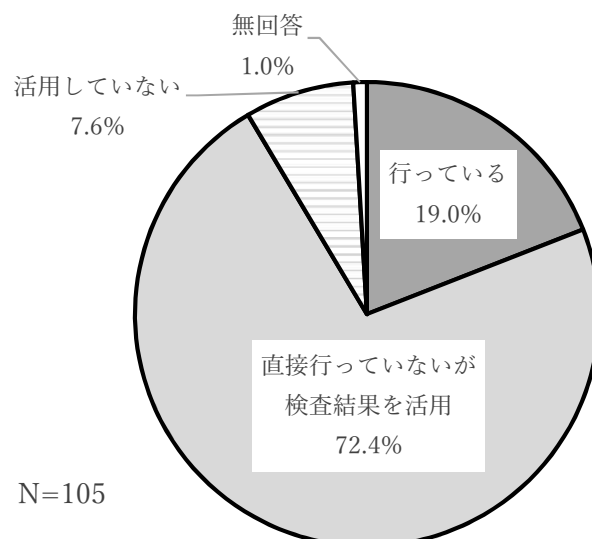
どのように障害特性を把握しているかについては、「関係機関からの情報の引継ぎ」(94.1%)が最も多く、次いで「ご本人及び関係者への聞き取り」(88.2%)、「行動観察」(87.3%)となっている。



(その他) 保護者からの聞き取り、個別の教育支援計画

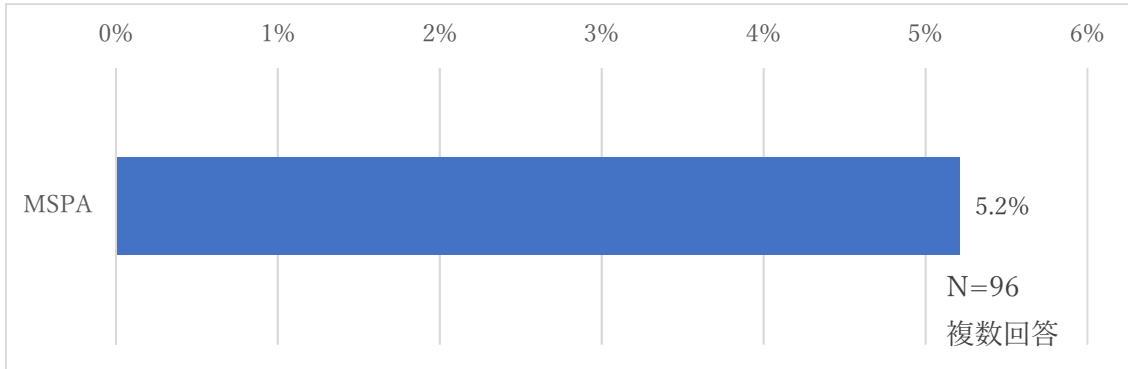
問5 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒について心理学的な検査を行い、支援に活用していますか。

心理学的な検査を行い、支援に活用しているかについては、「行っている」(19.0%)、「直接行っていないが検査結果を活用している」(72.4%)、「活用していない」(7.6%)となっている。

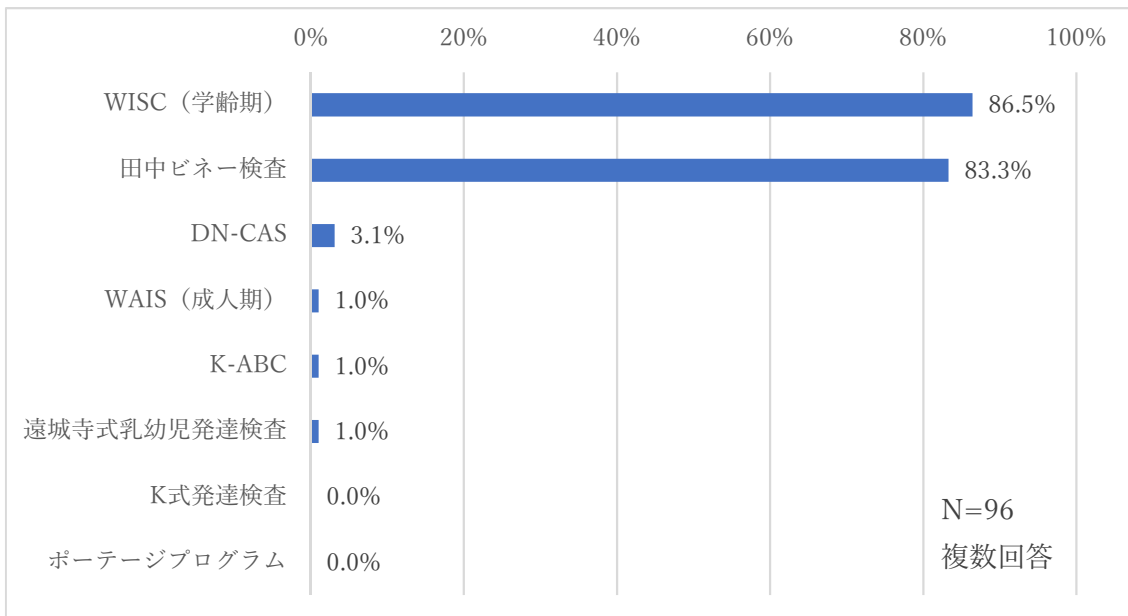


副問5-1 問5で「行っている」「直接行っていないが検査結果を活用している」と答えた方におたずねします。どのような検査を活用していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

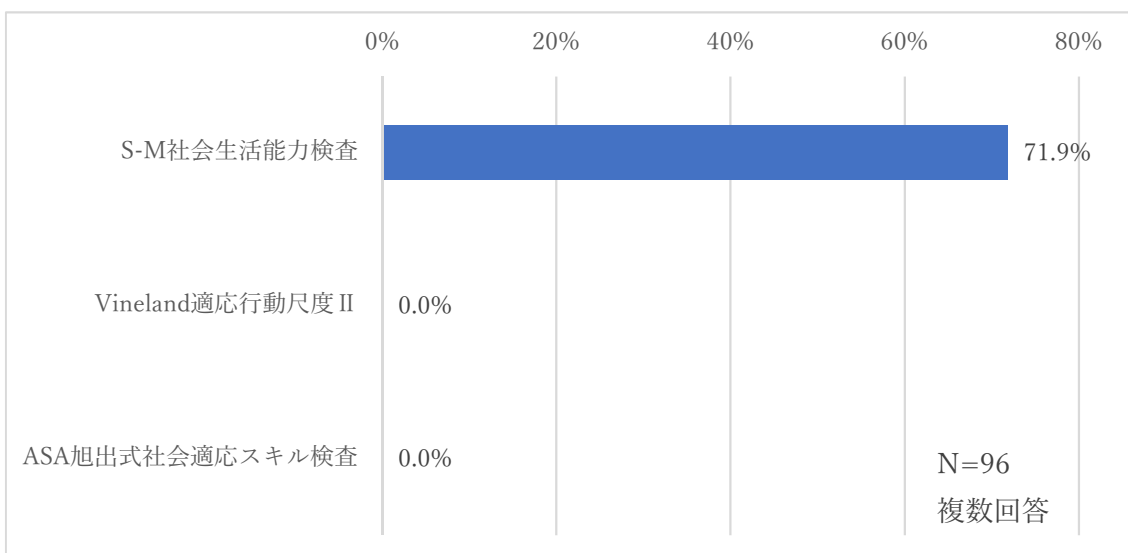
① 日常生活における困難と要支援度の評価



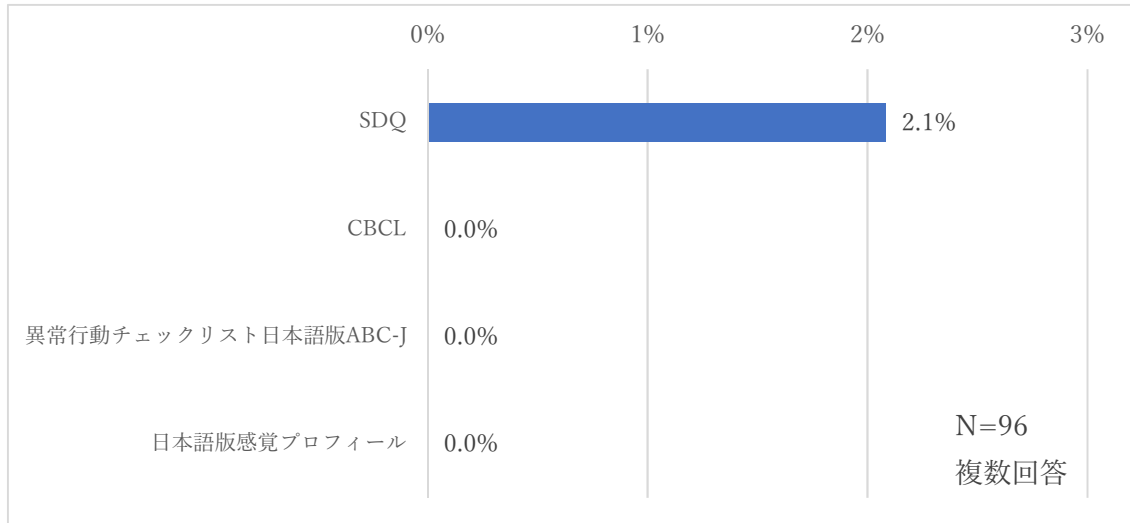
② 知能検査・発達検査



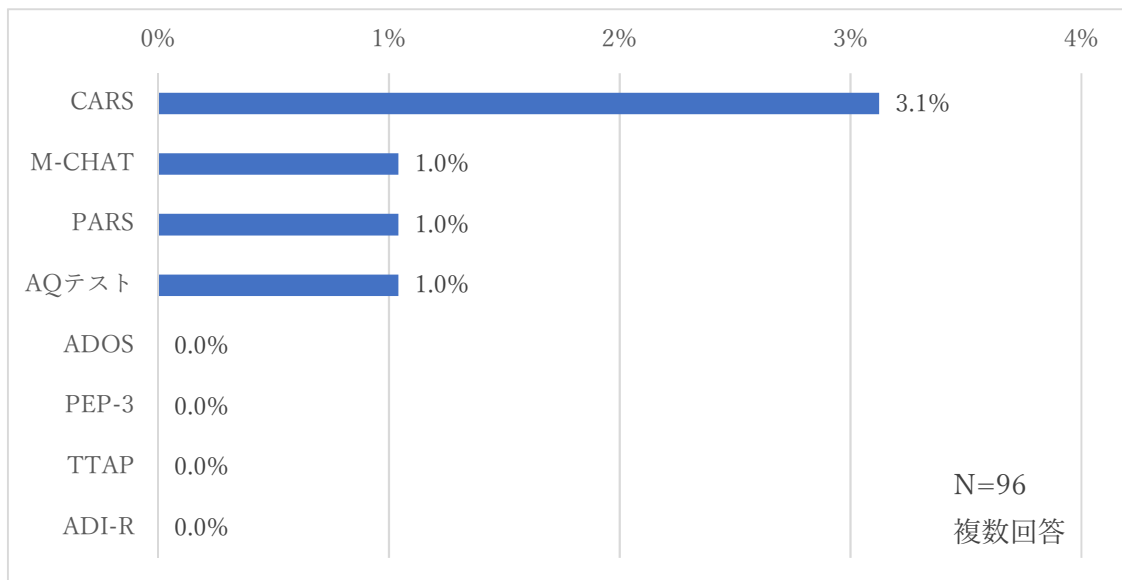
③ 適応行動（生活能力）のアセスメント



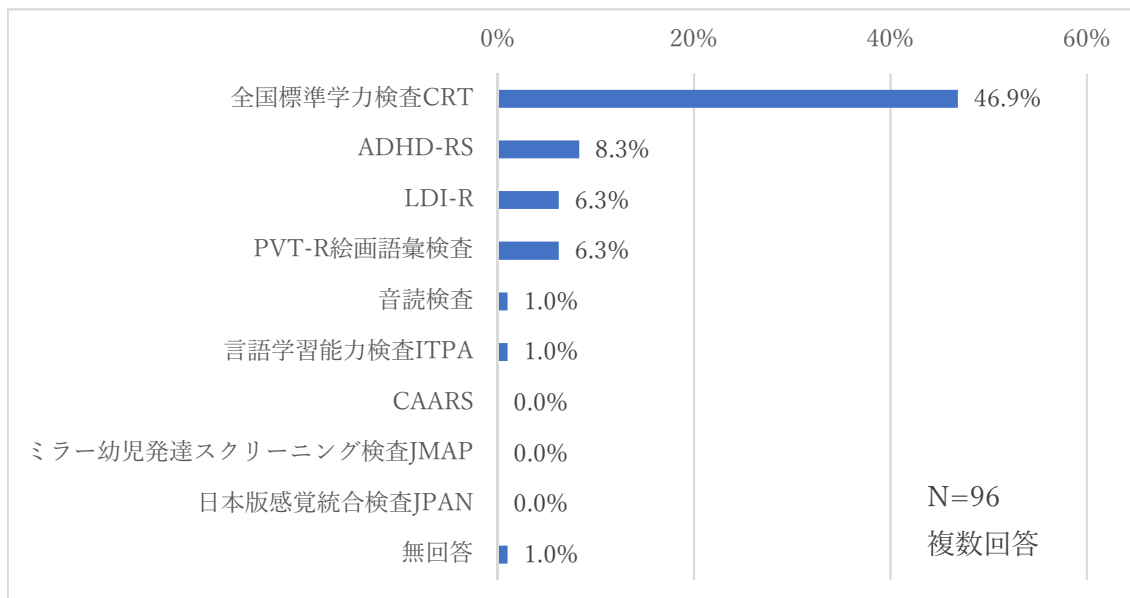
④ 情緒と行動のアセスメント



⑤ 自閉症スペクトラムのアセスメント



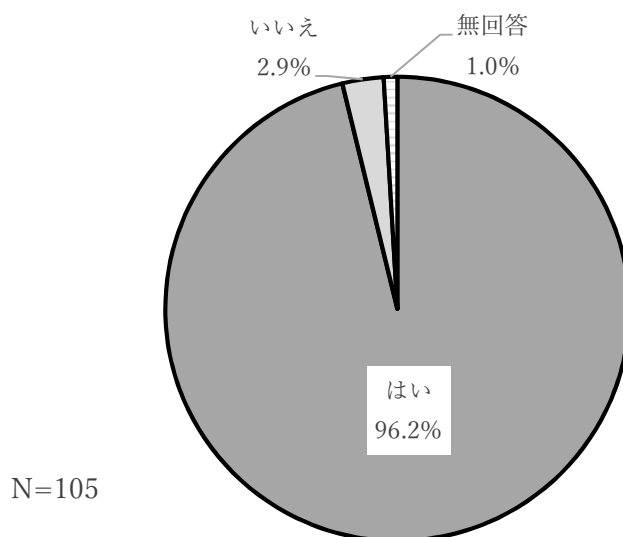
⑥ その他のアセスメント



【D 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います（その② 日常生活について）】

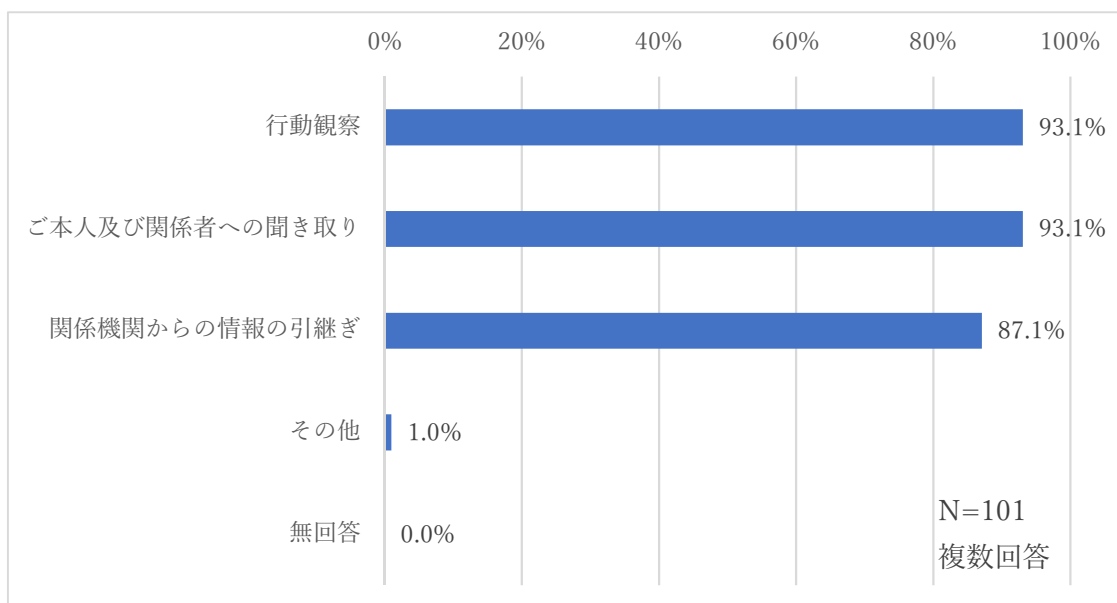
問 6 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が日常生活を送る上で、特別に配慮が必要な障害特性について、具体的に把握していますか。

障害特性を把握しているかについては、「はい」(96.2%)、「いいえ」(2.9%)となっている。



副問 6-1 問 6 で「はい」と答えた方におたずねします。どのように障害特性を把握していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

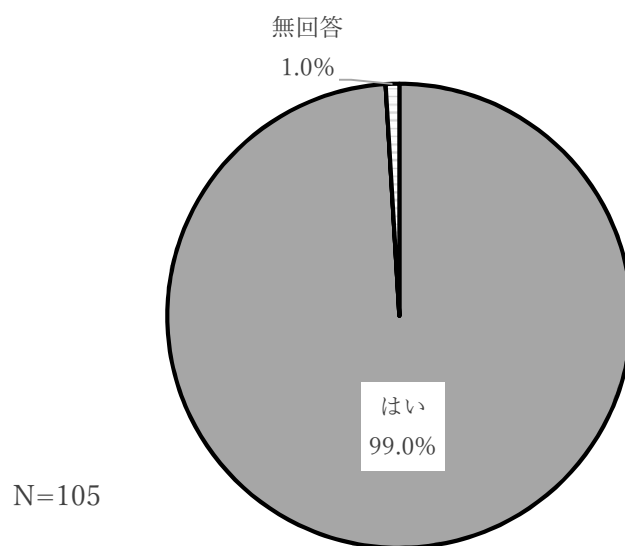
どのように障害特性を把握しているかについては、「行動観察」・「ご本人及び関係者への聞き取り」(93.1%)が最も多く、次いで「関係機関からの情報の引継ぎ」(87.1%)となっている。



(その他) 校内の情報共有

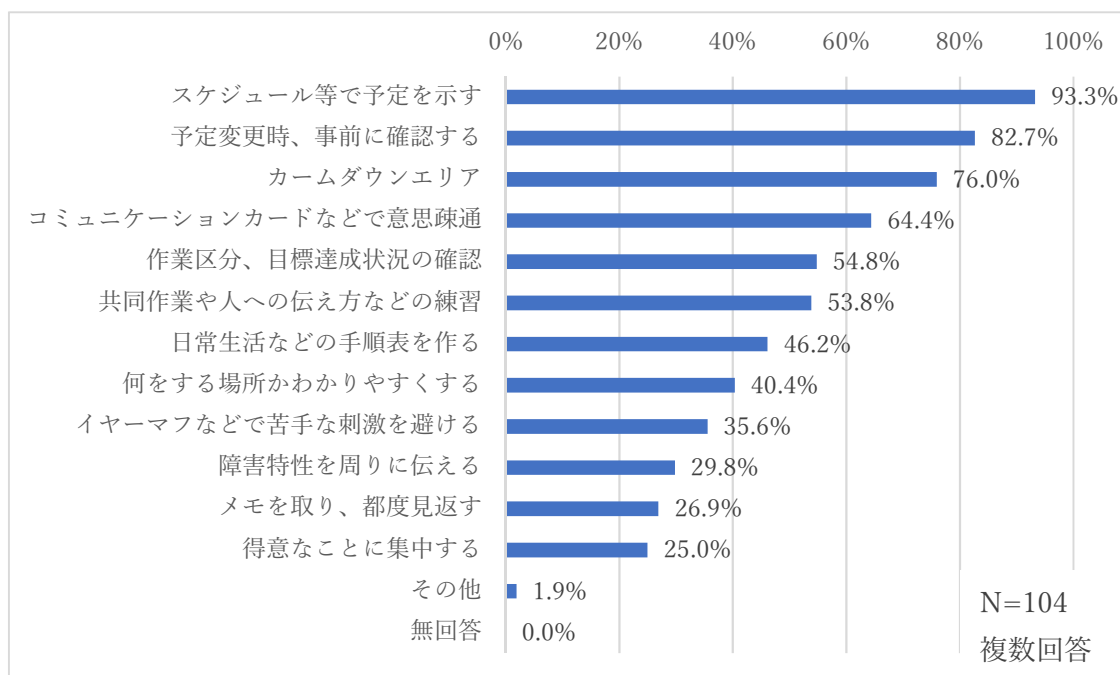
問7 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が日常生活を送る上で、特別に配慮が必要な障害特性に対して、何らかの「手立て」を行っていますか。

何らかの「手立て」を行っているかについては、「はい」(99.0%)となっている。



副問7-1 問7で「はい」と答えた方におたずねします。具体的にどのような「手立て」を講じていますか。該当するものをすべて選んでください。

どのような「手立て」を講じているかについては、「スケジュール等で予定を示す」(93.3%)が最も多く、次いで「予定変更時、事前に確認する」(82.7%)、「カームダウンエリア」(76.0%)となっている。



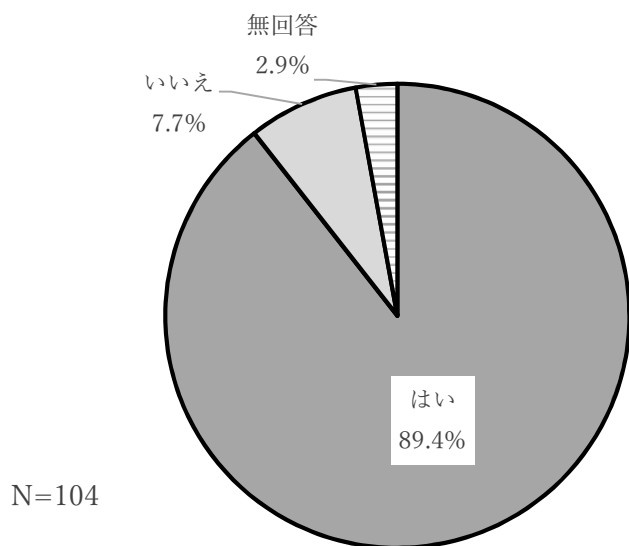
(その他)

- ・発達障害について啓発学習を行っている。
- ・周りに頼るスキル、また、断る時のスキルについて確認、練習をしている。



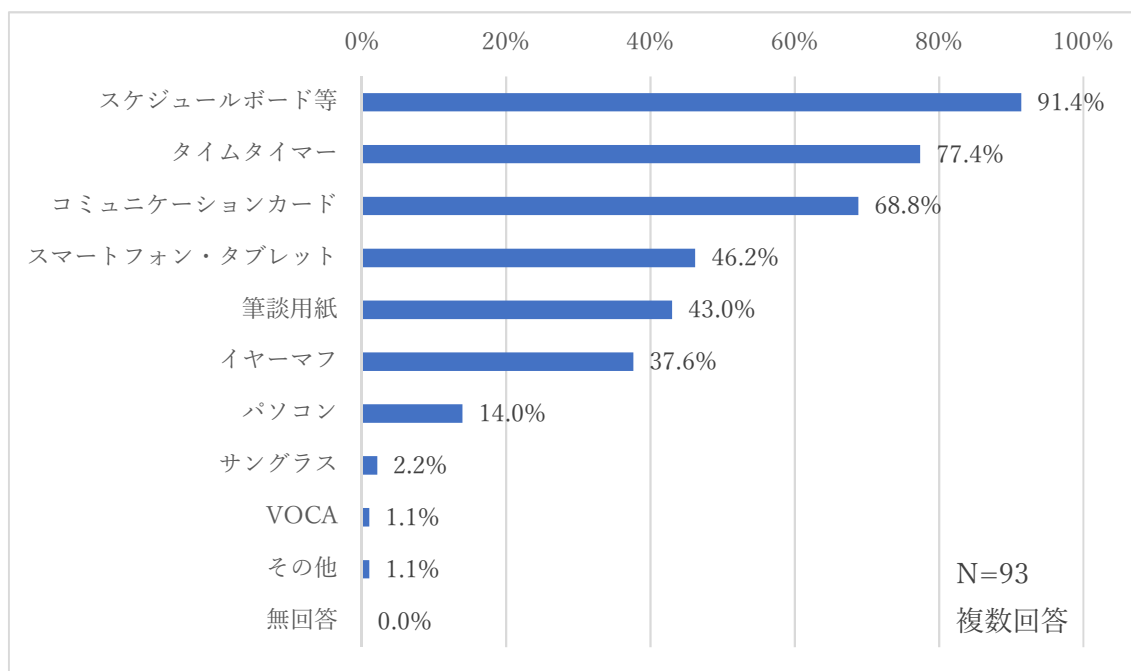
副問7-2 問7で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるにあたり、ツール（道具や用紙など）を使っていますか。

ツールを使っているかについては、「はい」(89.4%)、「いいえ」(7.7%)となっている。



副問7-2-1 副問7-2で「はい」と答えた方におたずねします。主にどのようなツールを使っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

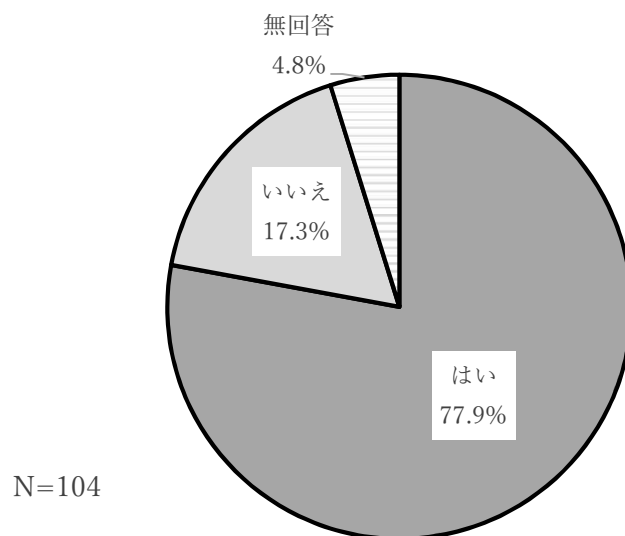
どのようなツールを使っているかについては、「スケジュールボード等」(91.4%)が最も多く、次いで「タイムタイマー」(77.4%)、「コミュニケーションカード」(68.8%)となっている。



(その他) ストップウォッチ

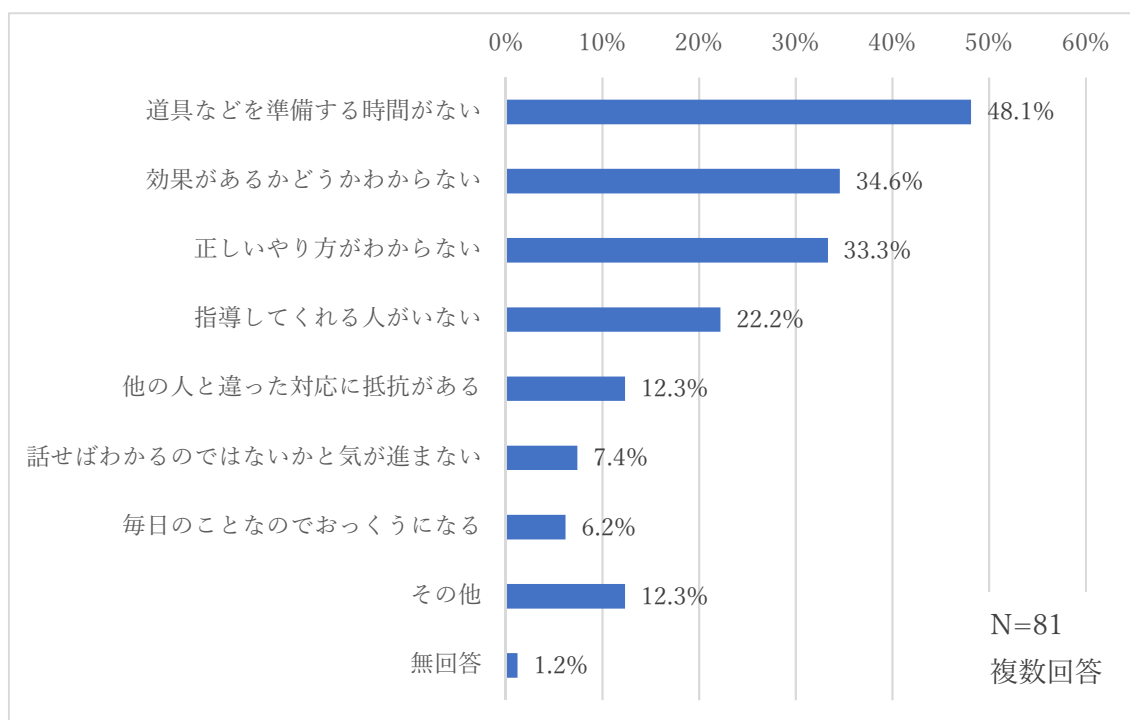
副問7-3 問7で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるうえで、難しいと感じることがありますか。

難しいと感じることがあるかについては、「はい」(77.9%)、「いいえ」(17.3%)となっている。



副問7-3-1 副問7-3で「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに難しさを感じますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

どのようなことに難しさを感じるかについては、「道具などを準備する時間がない」(48.1%)が最も多く、次いで「効果があるかどうかわからない」(34.6%)、「正しいやり方がわからない」(33.3%)となっている。



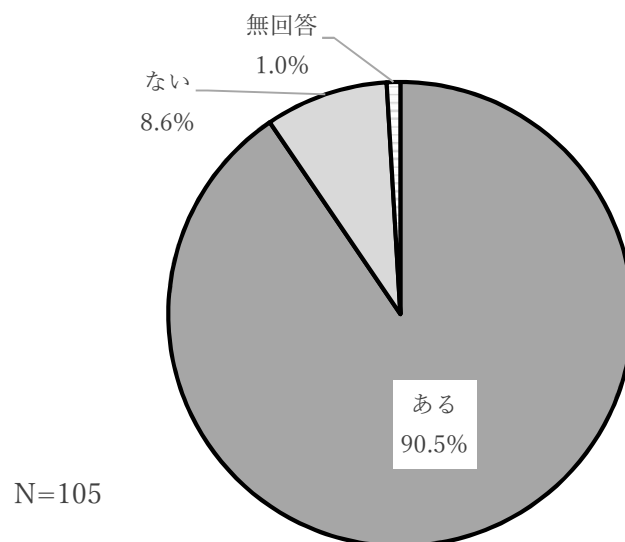
(その他)

- ・そのやり方や手立てが本当に適切なのか迷うことがある。
- ・取り出しがしにくい、本人がいやがる。
- ・保護者が他者と違う対応をとることを否定的に受け止めているため、実践しづらい。
- ・他の人と異なる対応に対して、本人が抵抗を感じている。
- ・手立てがいつも役立つとも限らない。
- ・ほかの児童への指導がおろそかになることがある。
- ・通常級で対応している状況にあり、かつ、対象人数が多すぎて、個別対応が困難である。
- ・その時々でうまくいく場合とうまくいかない場合がある。
- ・変化がないわけではないが、手立てが児童にとって有効に働いているのか、もっとよい方法があるのではないかと感じる。
- ・取った手立ての有効性やよりよい支援の方法など、具体的な達成目標が設定しにくい。
- ・該当児童の特性に応じた手立てを工夫しているが、その適正や効果検証が難しい。

【D 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います (その③ 支援体制について)】

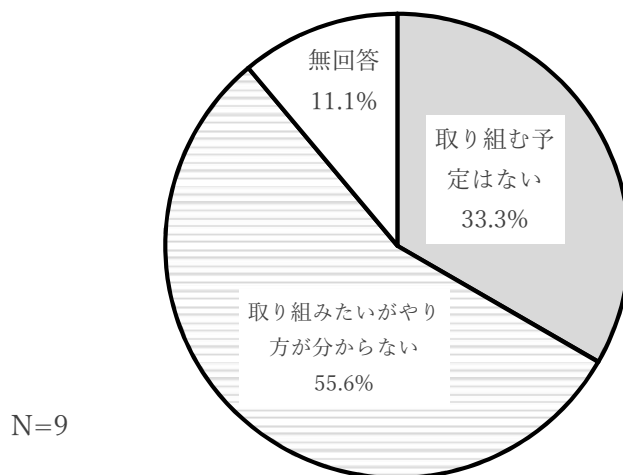
問8 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒が日常生活を送るうえで必要な「手立て」について、医療・福祉・教育・雇用(労働)など関係機関と連携して取り組んだことがありますか。

関係機関と連携して取り組んだことがあるかについては、「ある」(90.5%)、「ない」(8.6%)となっている。



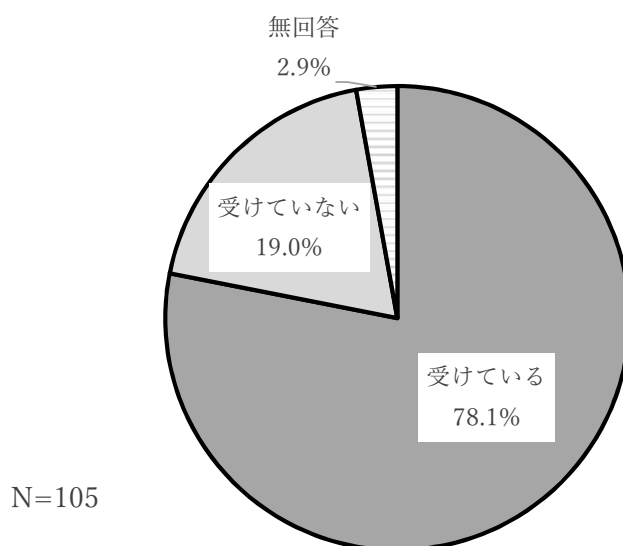
副問8-1 問8で「ない」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものをひとつ選んでください。

今後の予定については、「取り組みたいがやり方が分からない」(55.6%)、「取り組む予定はない」(33.3%)となっている。



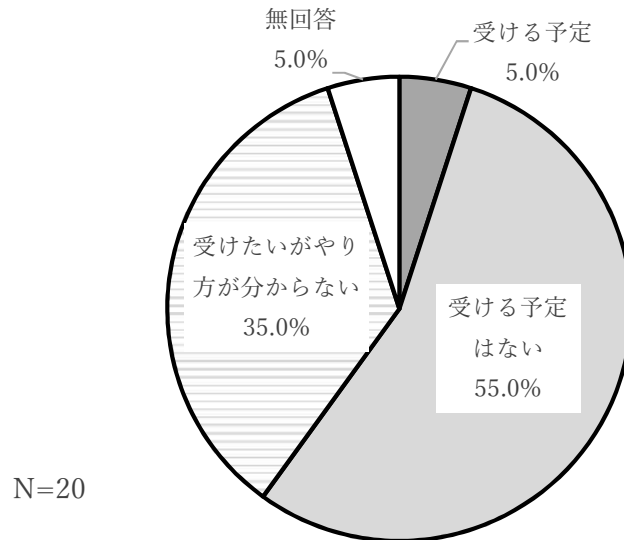
問9 専門機関（病院、発達障害者支援センターつばさ、障害者基幹相談支援センター、子ども総合センター等）から、助言や指導を受けていますか。

助言や指導を受けているかについては、「受けている」(78.1%)、「受けていない」(19.0%)となっている。



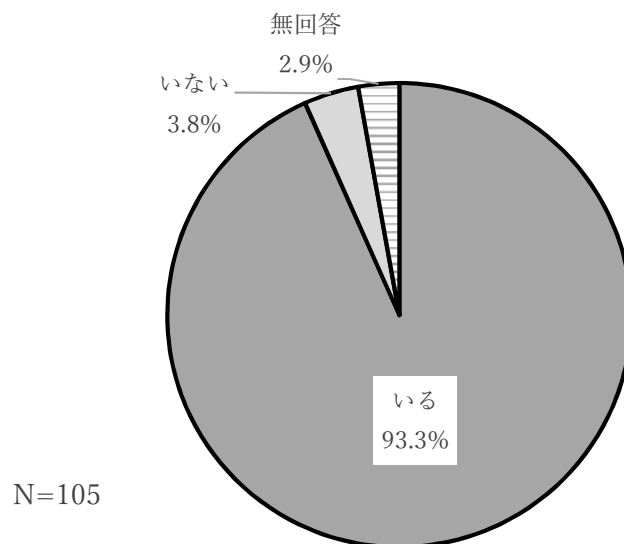
副問9-1 問9で「受けていない」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものをひとつ選んでください。

今後の予定については、「受ける予定はない」(55.0%)、「受けたいがやり方が分からない」(35.0%)、「受ける予定」(5.0%)となっている。



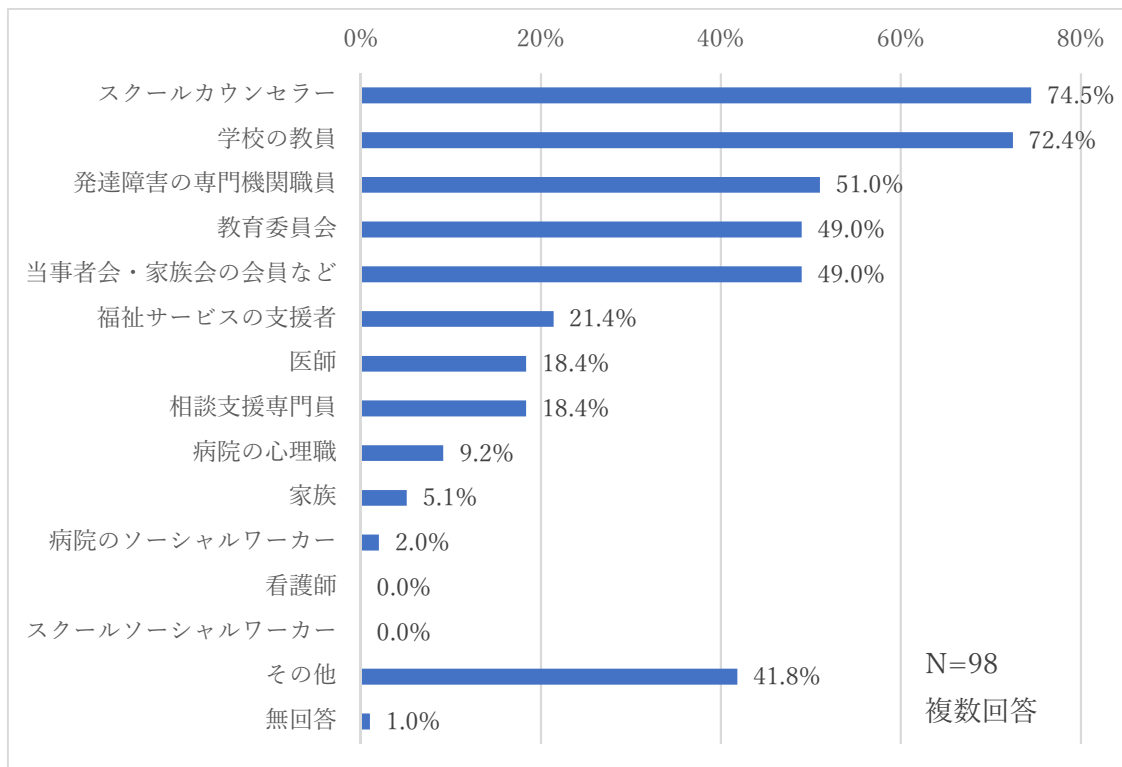
問10 発達障害もしくはその可能性のある児童生徒を支援する上で、困ったときに頼れる相談相手はいますか。

頼れる相談相手がいるかについては、「いる」(93.3%)、「いない」(3.8%)となっている。



副問10-1 問10で「いる」と答えた方におたずねします。主な相談相手は誰ですか。  
該当するものをすべて選んでください。

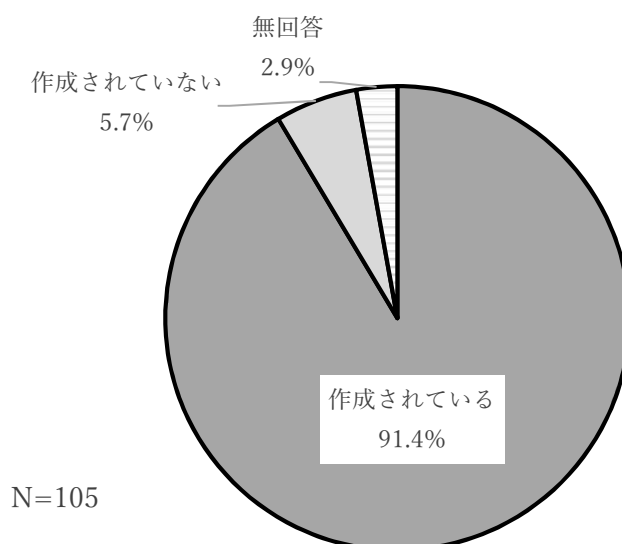
相談相手については、「スクールカウンセラー」(74.5%)が最も多く、次いで「学校の教員」(72.4%)、「発達障害の専門機関職員」(51.0%)となっている。



(その他) 児童養護施設の関係者、臨床心理士(2)

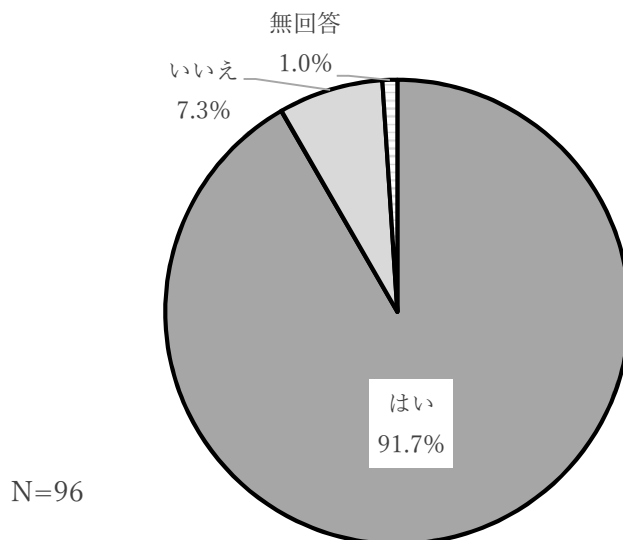
問11 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒を支援するための個別の教育支援計画は作成されていますか。

教育支援計画を作成しているかについては、「作成されている」(91.4%)、「作成されていない」(5.7%)となっている。



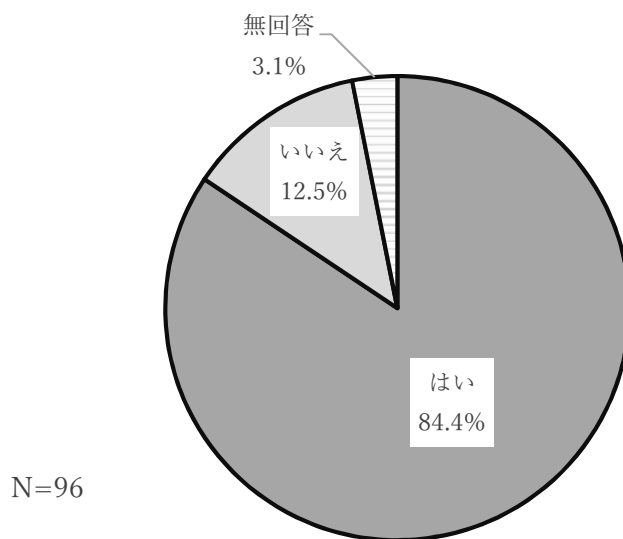
副問 1 1-1 問 1 1 で「作成されている」と答えた方におたずねします。作成された計画について、定期的に取り組みの結果を振り返り、その成果や課題を踏まえて内容の見直しがなされていますか。(PDCA サイクル)

成果や課題を踏まえて内容の見直しをしているかについては、「はい」(91.7%)、「いいえ」(7.3%) となっている。



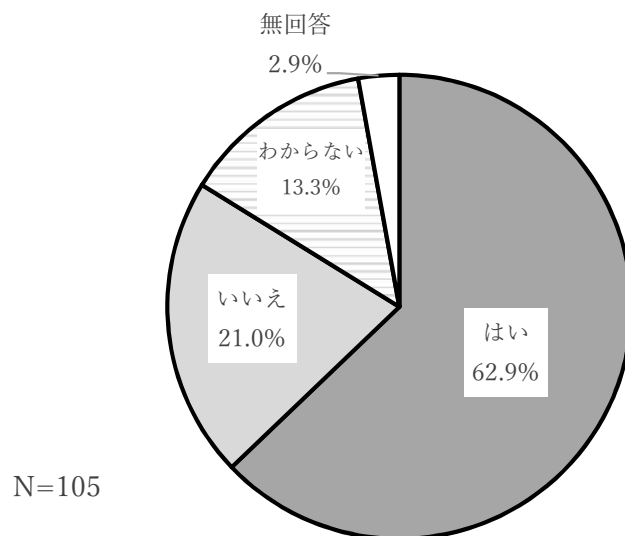
副問 1 1-2 問 1 1 で「作成されている」と答えた方におたずねします。ご本人（発達障害もしくはその可能性がある児童生徒）やそのご家族は、ご自身の支援計画の作成やその見直し（PDCA サイクル）作業に参加して、意見や要望を直接伝えていますか。

意見や要望を直接伝えているかについては、「はい」(84.4%)、「いいえ」(12.5%) となっている。



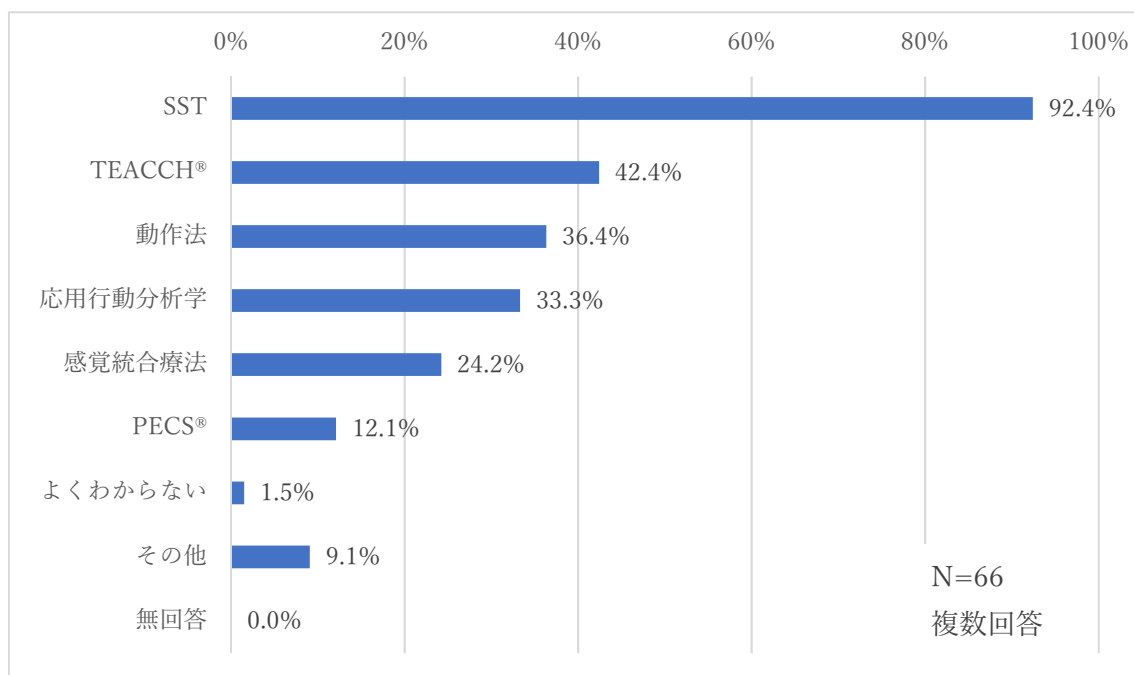
問12 貴校では、発達障害もしくはその可能性のある児童生徒の支援に専門的な手法を取り入れていますか。

専門的な手法を取り入れているかについては、「はい」(62.9%)、「いいえ」(21.0%)、「わからない」(13.3%)となっている。



副問12-1 問12で「はい」と答えた方におたずねします。どのような手法を取り入れていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような手法を取り入れているかについては、「SST」(92.4%)が最も多く、次いで「TEACCH®」(42.4%)、「動作法」(36.4%)となっている。

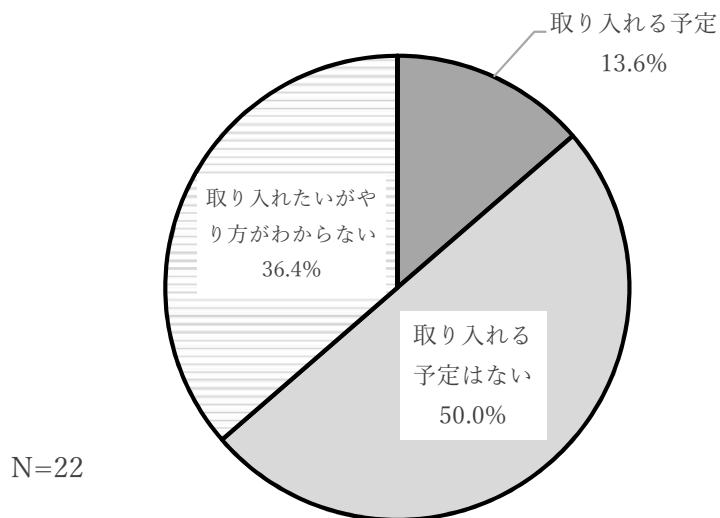


(その他) コグトレ(4)、クールダウン、アセス、SEL-S、論語



副問1 2-2 問1 2で「いいえ」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当  
てはまるものをひとつ選んでください。

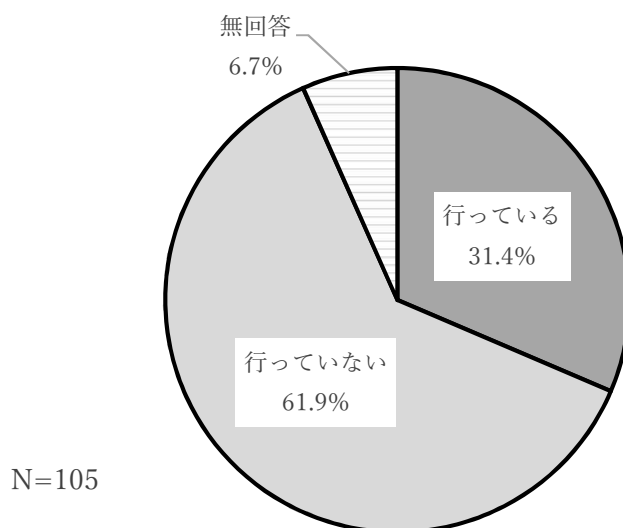
今後の予定については、「取り入れる予定はない」(50.0%)、「取り入れたいがやり方がわ  
からない」(36.4%)、「取り入れる予定」(13.6%)となっている。



【E 強度行動障害のある児童生徒への支援について伺います（その① 日頃の対応につい  
て）】

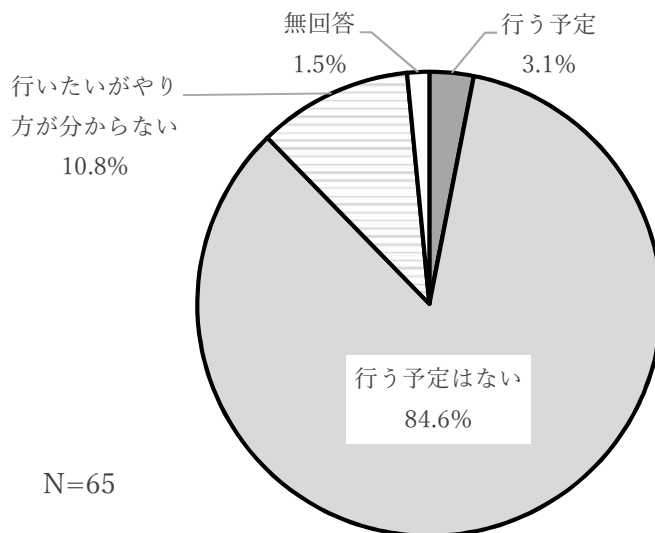
問1 3 貴校では、強度行動障害のある児童生徒への支援を行っていますか。

強度行動障害のある児童生徒への支援を行っているかについては、「行っている」(31.4%)、  
「行っていない」(61.9%)となっている。



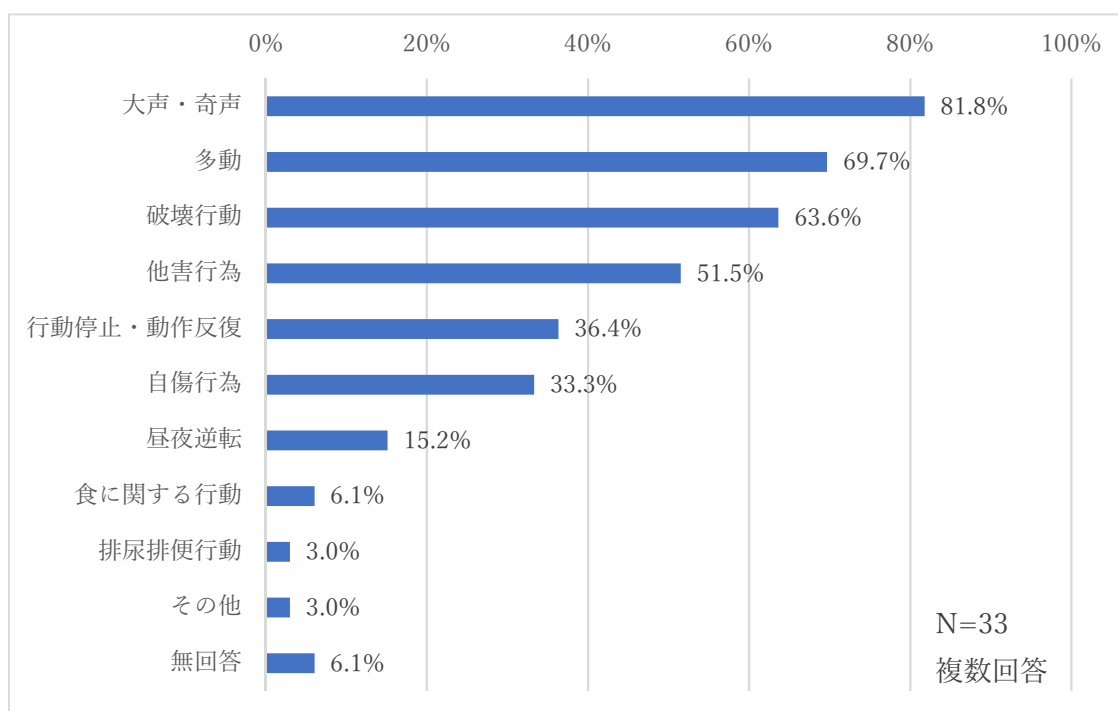
副問13-1 問13で「支援を行っていない」と答えた方におたずねします。今後、支援を行う予定はありますか。

今後、支援を行う予定があるかについては、「行う予定はない」(84.6%)、「行いたいやり方が分からない」(10.8%)、「行う予定」(3.1%)となっている。



問14 貴校では、強度行動障害のある人を支援するにあたり、障害特性があるために起きる行動で困っていることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

行動で困っていることについては、「大声・奇声」(81.8%)が最も多く、次いで「多動」(69.7%)、「破壊行動」(63.6%)となっている。

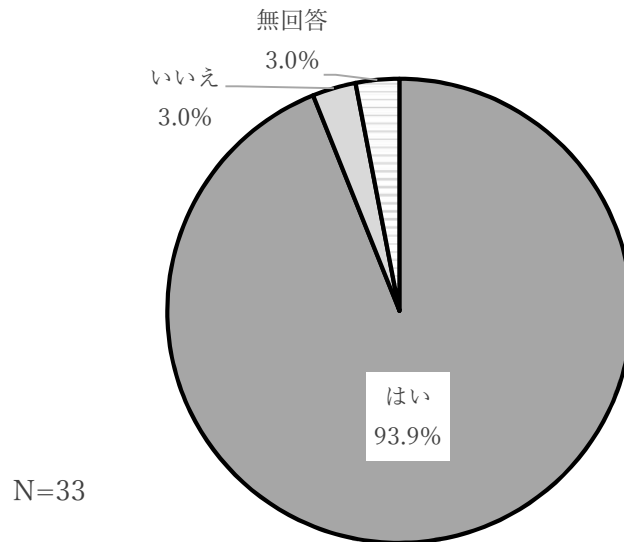


(その他)

- ・悪態をついたり、わざと逆のことをして気を引こうとする。挑戦性反抗障害の症状。

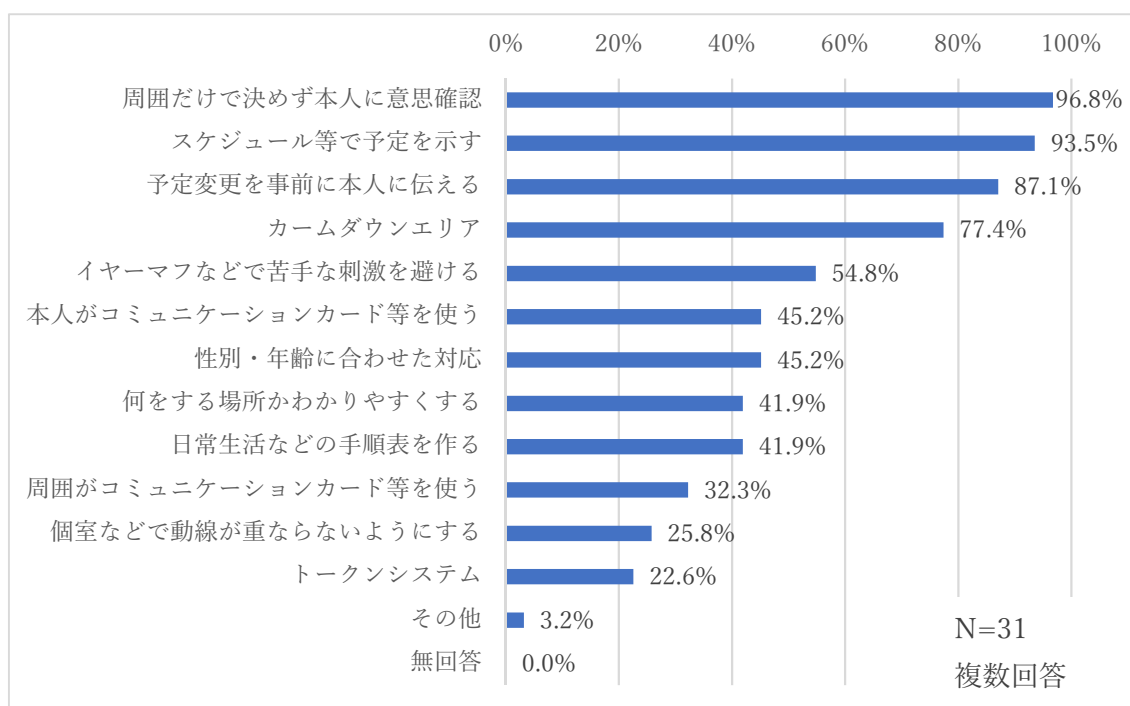
問15 貴校では、強度行動障害のある人の日常生活を支えるために、特別に配慮が必要な障害特性に対して何らかの「手立て」を行っていますか。

何らかの「手立て」を行っているかについては、「はい」(93.9%)、「いいえ」(3.0%)となっている。



副問15-1 問15で「はい」と答えた方におたずねします。具体的にどのような「手立て」を講じていますか。該当するものをすべて選んでください。

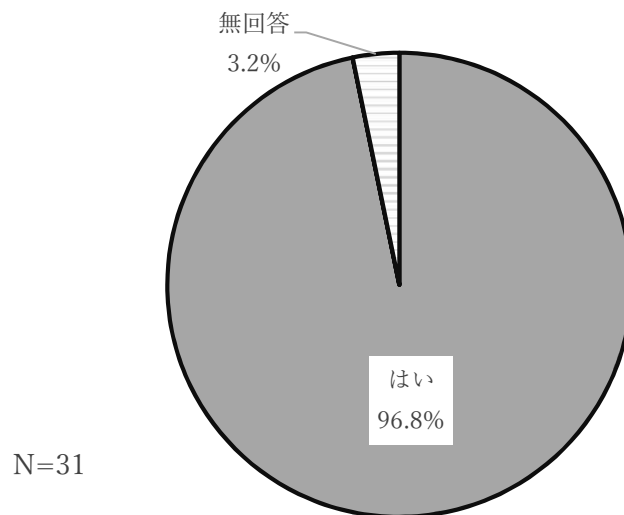
どのような「手立て」を講じているかについては、「周囲だけで決めず本人に意思確認」(96.8%)が最も多く、次いで「スケジュール等で予定を示す」(93.5%)、「予定変更を事前に本人に伝える」(87.1%)となっている。



(その他) 支援員の配置

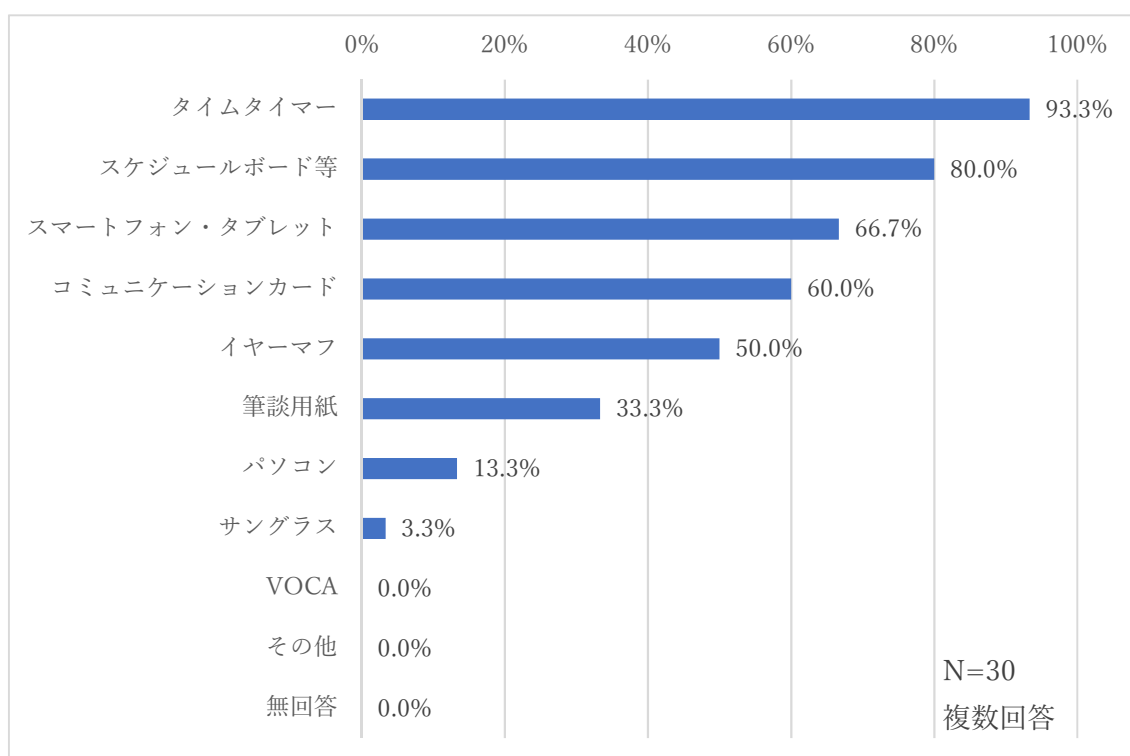
副問15-2 問15で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるにあたり、ツール（道具や用紙など）を使っていますか。

ツールを使っているかについては、「はい」(96.8%)となっている。



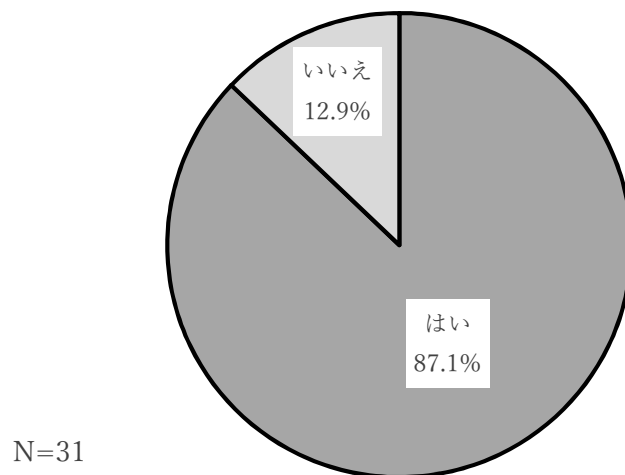
副問15-2-1 副問15-2で「はい」と答えた方におたずねします。主にどのようなツールを使っていますか。ご本人と一緒に使うもの、またはご本人が自分で使うものについて、当てはまるものをすべて選んでください。

どのようなツールを使っているかについては、「タイムタイマー」(93.3%)が最も多く、次いで「スケジュールボード等」(80.0%)、「スマートフォン・タブレット」(66.7%)となっている。



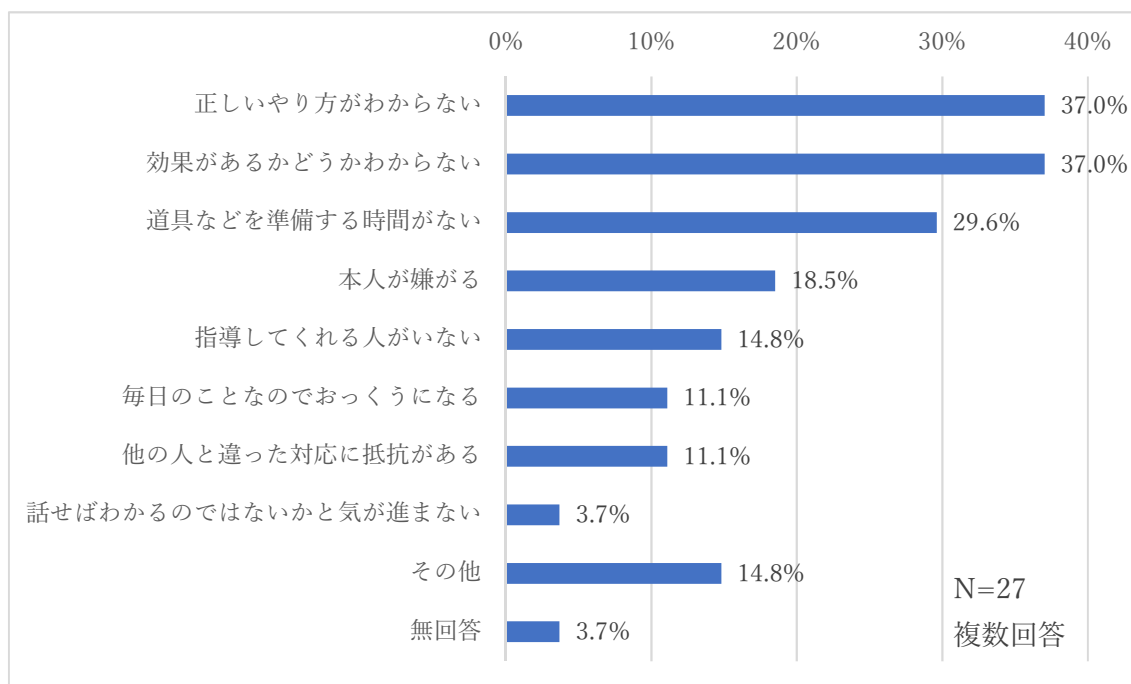
副問15-3 問15で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるうえで、難しいと感じることがありますか。

難しいと感じることがあるかについては、「はい」(87.1%)、「いいえ」(12.9%)となっている。



副問15-3-1 副問15-3で「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに難しさを感じますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

どのようなことに難しさを感じるかについては、「正しいやり方がわからない」・「効果があるかどうかわからない」(37.0%)が最も多く、次いで「道具などを準備する時間がない」(29.6%)となっている。



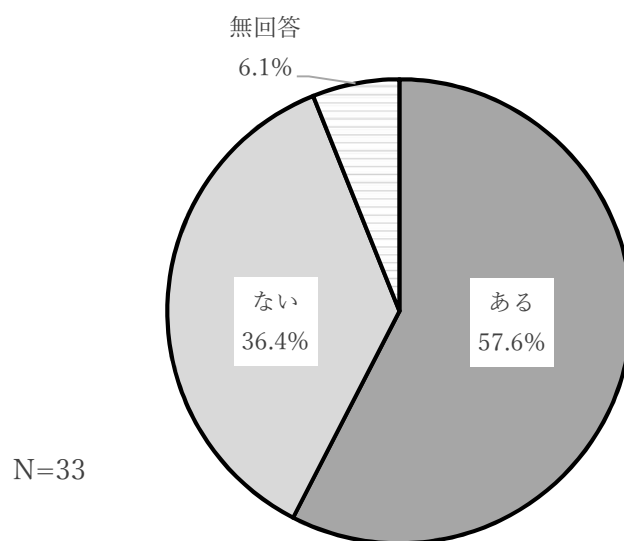
(その他)

- ・保護者の家庭での対応について改善を図ることが難しい。
- ・他の児童の邪魔をしたり、本人が先生を独り占めしてしまい、他の児童の指導ができなくなる。
- ・愛着形成に課題を抱えている可能性が高く、1対1になりたがる。ほかの児童へ指導に行くと音立てや不機嫌が表出することがある。
- ・その時々でうまくいく場合とうまくいかない場合がある。
- ・他の児童の指導もあり、即時に対応できない時が多い。
- ・保護者との連携が難しい。

【E 強度行動障害のある人への支援について伺います (その② パニックへの対応について)】

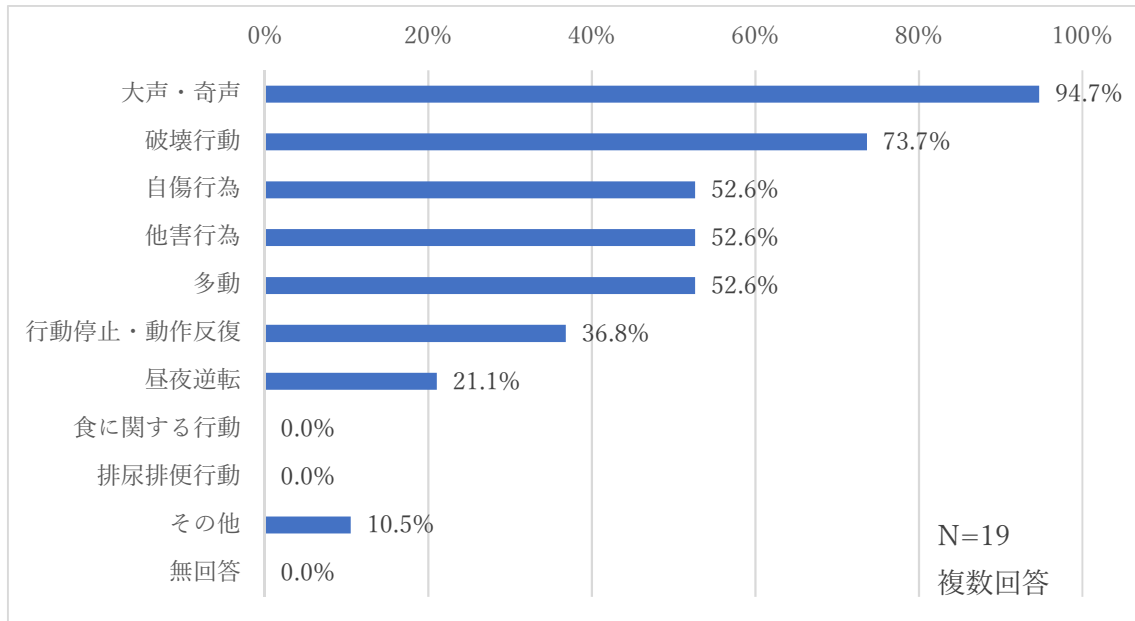
問16 強度行動障害のある人の状態が悪化して、危機的な状況(パニック)になったときのことを伺います。過去1年間に、ご本人が危機的な状況(パニック)になったことがありますか。

過去1年間に、危機的な状況(パニック)になったことがあるかについては、「ある」(57.6%)、「ない」(36.4%)となっている。



副問16-1 問16で「ある」と答えた方におたずねします。ご本人の状態が悪化したとき、具体的にどのような状態がより激しくなりましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

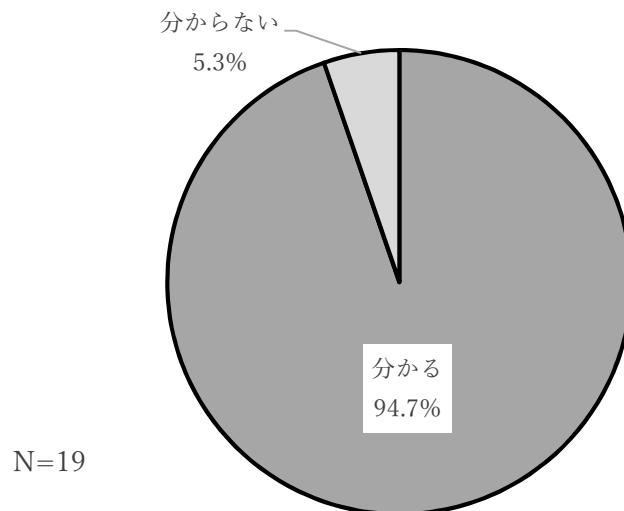
どのような状態がより激しくなったかについては、「大声・奇声」(94.7%)が最も多く、次いで「破壊行動」(73.7%)、「自傷行為」・「他害行為」・「多動」(52.6%)となっている。



(その他) 失神・意識消失、学校外へ出る

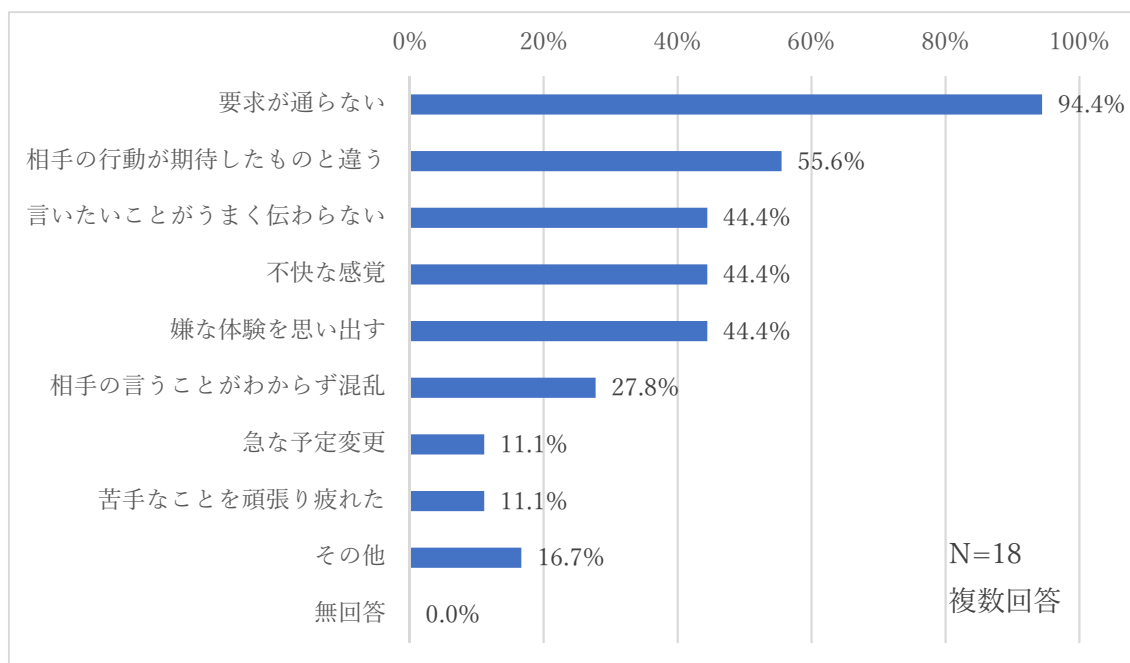
副問16-2 問16で「ある」と答えた方におたずねします。なぜそのような状態になったか、理由は分かりますか。

状態が悪化した理由については、「分かる」(94.7%)、「分からない」(5.3%)となっている。



副問16-2-1 副問16-2で「分かる」と答えた方におたずねします。主な理由は何ですか。該当するものを3つまで選んでください。

状態が悪化した主な理由については、「要求を通らない」(94.4%)が最も多く、次いで「相手の行動が期待したものと違う」(55.6%)、「言いたいことがうまく伝わらない」・「不快な感覚」・「嫌な体験を思い出す」(44.4%)となっている。



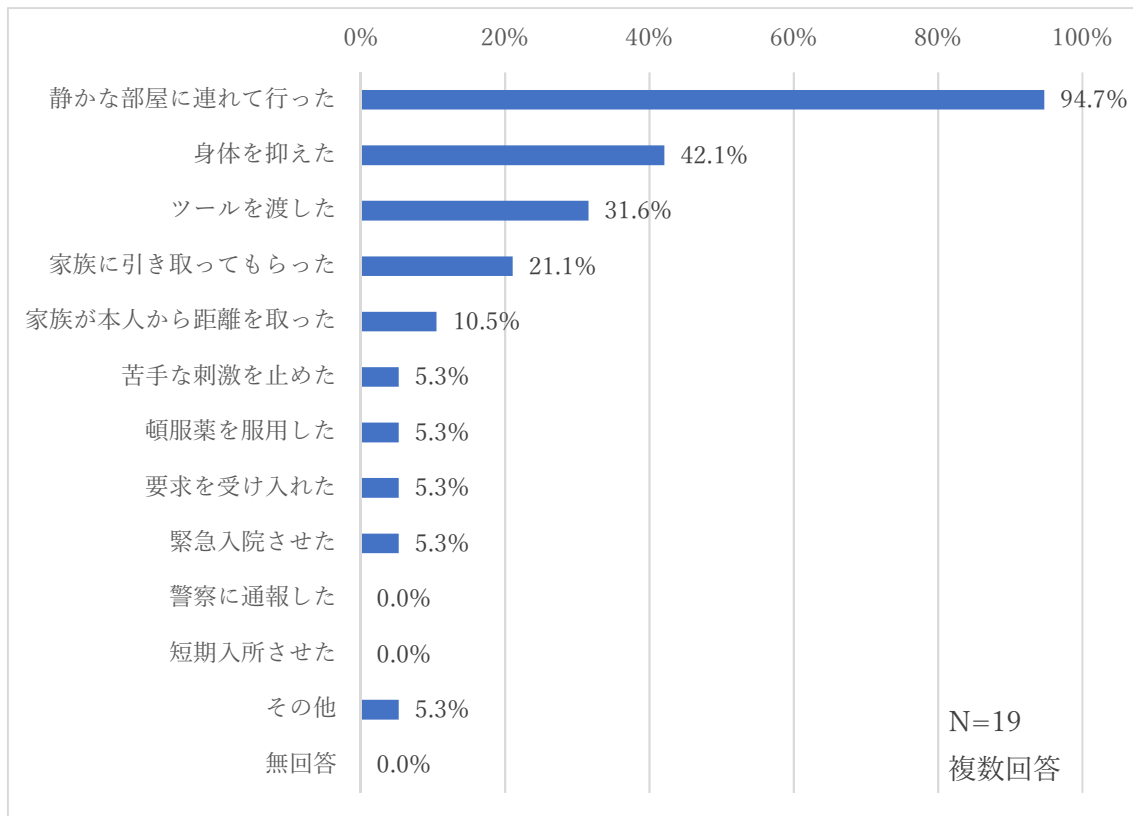
(その他)

- ・わからないこともある。
- ・家族の本人への不適切な対応。
- ・母親との接触が少ない日が重なると不安定になる。



副問16-3 問16で「ある」と答えた方におたずねします。ご本人の危機的な状況（パニック）は、どのようにして収まりましたか。該当するものを3つまで選んでください。

どのようにして収まったかについては、「静かな部屋に連れて行った」(94.7%)が最も多く、次いで「身体を抑えた」(42.1%)、「ツールを渡した」(31.6%)となっている。



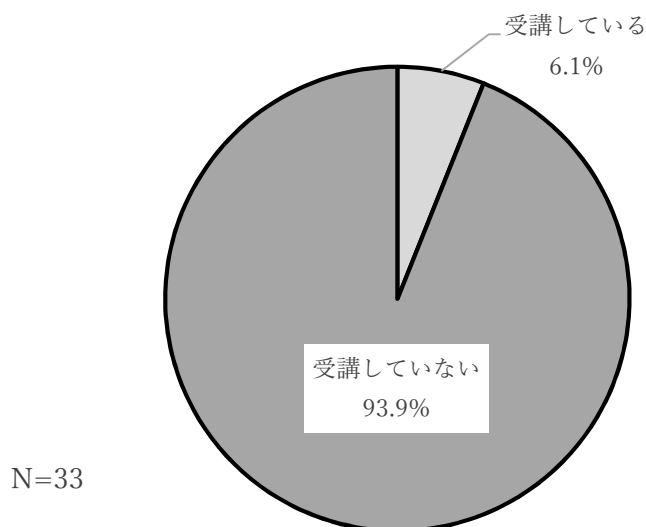
(その他)

- ・学校から家庭訪問し、対応支援にあたった。

【E 強度行動障害のある人への支援について伺います（その③ 人材育成について、今後の方向）】

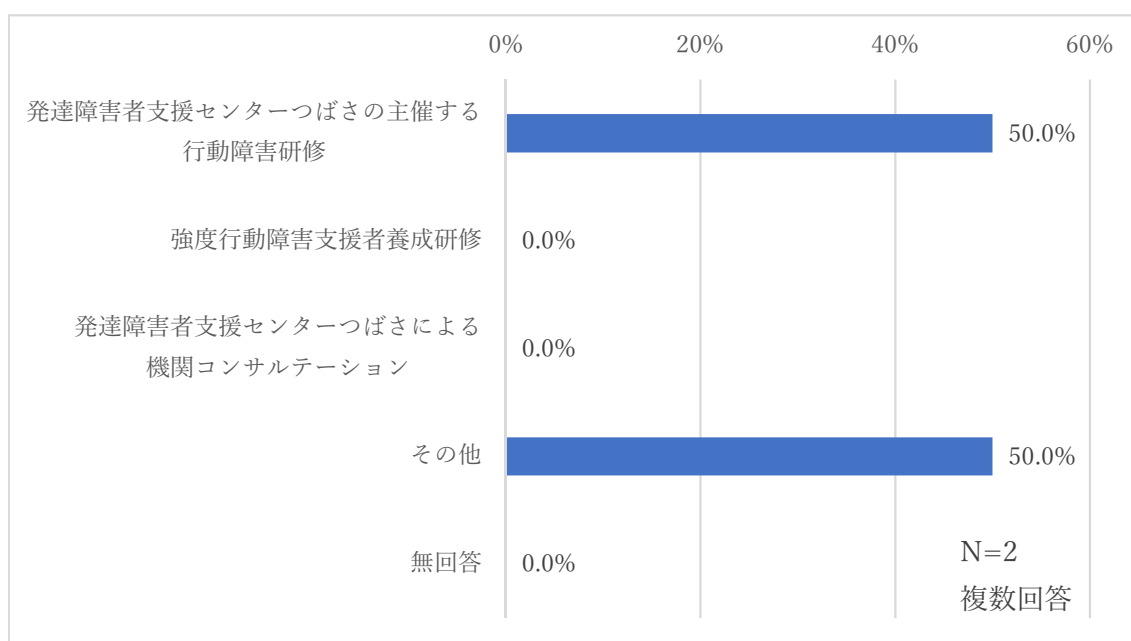
問17 貴校では、強度行動障害の支援に関する研修を受講していますか。

研修を受講しているかについては、「受講している」(6.1%)、「受講していない」(93.9%)となっている。



副問17-1 問17で「受講している」と答えた方におたずねします。どのような研修を受講されましたか。当てはまるものをすべて選んでください。

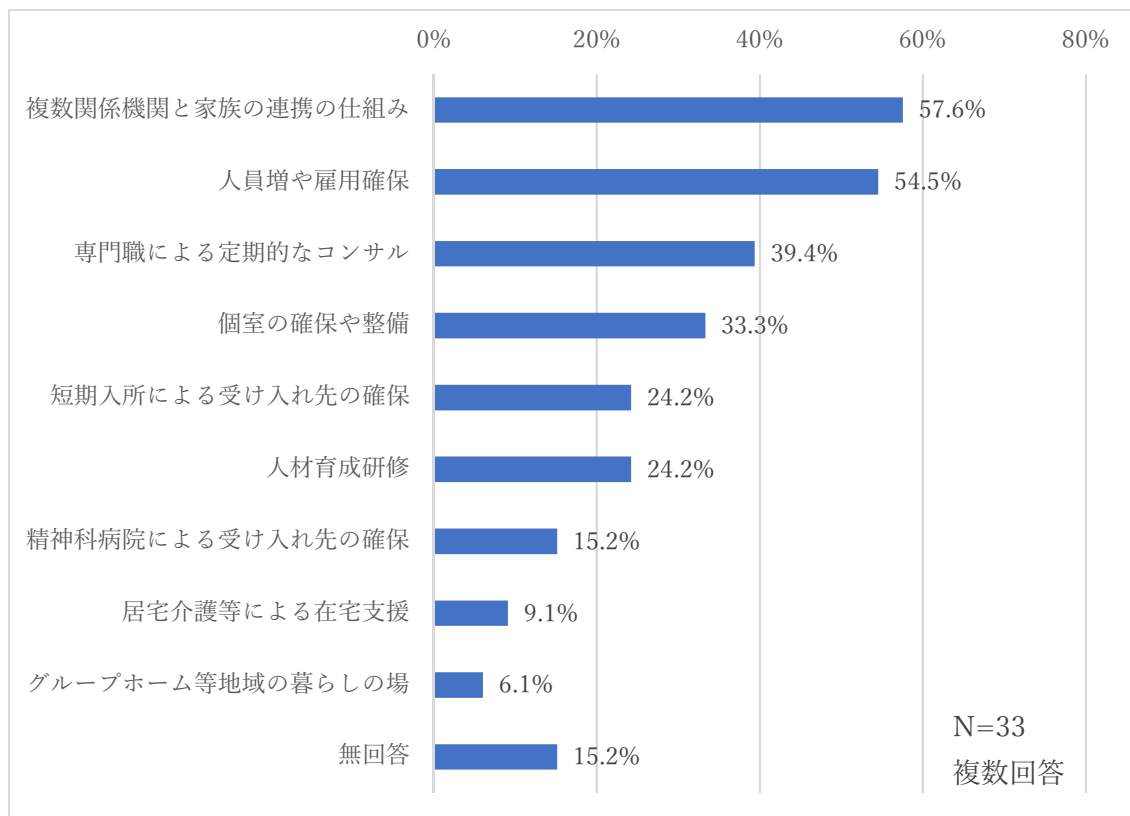
どのような研修を受講したかについては、「発達障害者支援センターつばさの主催する行動障害研修」(50.0%)が最も多くなっている。



(その他) 肥前精神医療センター精神看護研修

問18 強度行動障害のある人を支援するにあたり、どのような体制が必要だと考えますか。特に重要と思われるものを3つまで選んでください。

必要な体制については、「複数関係機関と家族の連携の仕組み」(57.6%)が最も多く、次いで「人員増や雇用確保」(54.5%)、「専門職による定期的なコンサル」(39.4%)となっている。



【最後に発達障害者支援に関するご意見・ご要望などがあれば、ご自由にお書きください】

- 本校には、強度行動障害のある児童の在籍がないため途中の質問が未記入です。
- 本校には、強度行動障害のある児童は在籍ないです。発達障害に関する研修がもっとあるといいなと思います。
- 教育力の著しく低い家庭がある。その家庭は、児童の心身の健康に留意して養育することが難しい。これまでに学校、SSW、医療、子ども総合センター、区役所、相談支援事業所、ヘルプステーション等に加え、児童の友人の力も借りながら様々な人々が関わり、6年間かけて支援と改善を図ってきたが、思うように改善を図ることができていない。子ども総合センター等が、家庭へ介入を図るタイミングを早めることはできないだろうかと切に願う。子どもの権利を守るためにもっと動いてほしいというのが、本学校としての意見である。
- 発達外来をしている病院の情報（市内）などを伝えるHPなどがあると嬉しいです。
- 発達障害者支援を行うにあたって、人材や環境が必要だと感じます。必要な支援を行うためには、接する大人である保護者、教職員に知識とツールとゆとりが必要です。また、児童同士においても同様で、自分自身にゆとりがない児童は、自分自身にも他者に対しても受容的にはなれません。自治体や、地域、個々の学校によって、発達障害者を

<p>とりまく環境が異なることも残念です。すべての学校に自閉症・情緒障害の特別支援学級があり、児童や保護者が選べる環境が必要だと考えます。また、通常の学級、学校ですべての児童を受け入れるならば、多くの環境整備や人材の確保・育成をするべきだと思います。</p>
<p>通常学級の教員の特別支援教育に対する理解が乏しく、支援学級の教員は肩身の狭い思いをしています。</p>
<p>情緒障害学級の学習カリキュラムは基本的に当該学年の学習をカリキュラム通り行うこととなっているが、学力に課題を抱えている児童が多く、LDも併せもっている児童が在籍しているため、実態によって学習における柔軟的な措置ができるようにしてもらいたい（今もある程度対応はできるが、当該学年の履修項目もこなすため、できないことに児童が自尊心を低下させやすい。）また、自閉症の特性とは別に愛着形成不全のため不適応行動が表れている児童も多くみられ、この場合自傷・他害行動が出る 경우가多く、集団や強い刺激に弱い特性を持って支援学級に在籍している別の自閉症の児童はかえって支援学級にいてことでパニックを誘発することがある。補助職員の配置をお願いしたい。</p>
<p>問に回答しにくい。発達障害のあると思われる児童は、診断を受けた児童もいるし受けていない児童もいる。状況が把握できている子もいるし、できていない子もいる。検査を受けている子もいるし受けていない子もいる。強度行動障害のある子への支援を行っていないで回答したが、対象者がいないため行っていないのであって、対象者いれば当然行う。</p>
<p>特別支援学級を希望している児童が複数いても、学校に新設されなかったり、近隣の特別支援学級の人数がいっぱいで入れなかったりしている状況です。通常級で個別の支援を求められ、職員が対応に追われています。この状況を早急に改善していただきたいです。</p>
<p>一人に対応している間に他の児童の教育時間を確保するのが難しく、毎回「不安定になったときは、その状況をインターフォンで管理職に連絡する」ことで、あとは本人が落ち着くのを待っていた。日々の様子は管理職に報告しているが、担任一人での対応は厳しいと感じている。</p>
<p>発達障害を一括りにせず、困難な傾向を把握しアセスメントを行ってから、クラス分けなどができるため、それに対応する人員や部屋の確保が必要と感じる。また、社会的に学習だけが必要スキルではなく、この子たちが生きていくために必要なものは何か保護者も理解し、社会も理解していくシステムが重要だと思う。</p>
<p>このようなアンケートで自らの立場ですべきことを改めて教えて頂きました。具体的な行動（まずはコミュニケーションカードをオーダーメイドで作る）を、目の前の児童の分から行っていきます。</p>